

学年
通信

魂知輪

令和7年1月30日
第40号
小代中学校3年生
発行者:梅谷俊平

出願書類の作成を始めています

願書の下書きの下書きから始まった書類作成。今までにない緊張感の中、鉛筆で下書きをしていることと思います。ずれないように薄く線を引き、文字のバランスを整えながら書かなければならないし、気持ちを込めて書かなければならない。「入試モードのスイッチオン」というタイトルで29号を出した時に、あしあとを丁寧に書こうという内容を入れました。それを読んで意識を変えていった人もいます。今になって、その時の文章の意味を理解することが出来たのではないかなと思います。

高校にとって、みなさんのことを最初に知る、イメージするのは提出された願書を見た時です。その時にどのような印象を与えるのか。とても大事なことだと思います。たかが願書という人はいないと思いますが、されど願書。第一印象から好印象を持っていただきたいですね。

芦田先生のカウンセリング授業を受けて

椅子に座り、目を閉じ、手を前に出し、先生の話聴いてイメージを膨らませます。右手の指には重いおもりがついており、左手の指には空気より軽い風船がたくさんついている。ふと目を開けると、右手が左手より下がっているではありませんか。すっかり催眠術にかかってしまいました。話の中で、心理学者の「アルフレッド・アドラー」の話が出ました。彼の残した言葉の中で、みなさんに伝えたいものを紹介します。



勇気は喜びによってのみ育まれる。 人生の意味は他者への貢献にある。
自己受容は幸福への第一歩である。 目標に到達するためには、自己の変革が必要である。
タスクを避けることは自己成長を妨げる。 幸せは他者との関係の中に見出される。
他人からの評価はその人の個人的な意見であり、自分の評価そのものには、関係しない。
自分の不完全さを認め、受け入れなさい。相手の不完全さを認め、許しなさい。
他人からの賞賛や感謝など求める必要はない。
陰口を言われても気にすることはない。相手があなたをどう感じるかは相手の課題なのだから。

世代交代 バトンを後輩へ

今回は、実際の選挙で使われている記載台や投票箱を小代区地域局からお借りして、生徒会選挙をおこないました。3人の立候補者は、精一杯自分の思いを伝えていたように感じました。また、聴いている側のみなさんにも、後輩に託す思いを姿勢や視線から感じ取れました。

小代中学校は生徒数が少なく、大きな学校と違い、全員が何かしら大きな役を担う機会がたくさんあります。ですから、大変だと感じる時も多くありますよね。ですが、その分大きく成長できたのではないのでしょうか。作成中の卒業文集を少し読ませてもらった中で、自分自身の「成長」を実感した内容を書いている人が多くいました。

アドラー心理学と重なるかもしれませんが、「人数が少ないから何もできない」とネガティブになるのではなく、「成長できるチャンスがたくさんある」と見方・考え方をポジティブに捉えることが大切かもしれませんね。



～連絡～
「ひろば」の原稿が
明日締切となっております
ご協力よろしくお祈いします